

平成27年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「信濃大町食とアートの廻廊」開催事業
事業主体 (連絡先)	信濃大町食とアートの廻廊実行委員会
事業区分	教育・文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,605,873 円 (うち支援金額 2,704,000 円)

事業内容

- * 全国的に著名なアートディレクター北川フラム氏をアドバイザーに迎え、2017年に開催する国際芸術祭に向けた計画およびコンテンツ整備を進めた。
- * 会期中まで使える公式WEBサイトを準備した。
- * 芸術祭に向けた地域理解促進のため、国際的に活躍しているアーティスト・キュレーターを迎え、シンポジウムを開催した。
- * 芸術祭の意義を多くの市民と共有するため、地元向けの学習会を3回開催した。



【シンポジウムの様子】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

2年後の芸術祭開催に向けた下積みの年であり、ねらいに対する直接の効果は少なかったが、着実に準備を進め、地元理解を深めることができた。

- ①芸術祭に向け、コンセプトの確立や作家選定等の計画が進み、ウェブサイトが準備された。
- ②シンポジウムやメディアツアーには、市外・県外からも10数名が訪れ、芸術祭開催の手応えを感じることができた。
- ③11月以降市民の間で芸術祭への意識が高まり、学習会には3回合わせて300人以上が参加した。行政主体の実行委員会の改編に伴い、参加団体が15団体から60団体へと大幅に増え、実施体制が強化された。また具体的な食のプロジェクト、地域のおもてなし力が高まった、
- ④フェイスブックでのいいね数は513となった。

【目標・ねらい】

- ①水の町大町を全国発信する。
- ②多くの人に大町を訪れてもらう。
- ③水の町のイメージを地元にも浸透させ、地域の誇りとおもてなし力を高める。
- ④大町のファンを増やす。

※自己評価【 A 】

【理由】

芸術祭に向けた計画が進み体制が整ったこと、地元に関心が高まり理解が深まったことは大きな成果であった。食を絡めたシンポジウムや銀座での大町の発信に手応えが感じられた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今年度は国際芸術祭開催に向けた体制を整え、地元理解を深めることができたので、次年度は具体的な準備作業に入っていく予定である。土地を表現し誘客の目玉となるアート制作はもちろんだが、市民主体のおもてなしを丁寧に計画して人と食の魅力を伝えるコンテンツを作りこみ、芸術祭とあわせて発信することで、大町のファンやサポーターを増やしていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
 「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある